

氏名	長 澤 弘 明		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	乙 第 1817 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和62年 9 月30日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学 位 論 文 題 目	大網被覆自家気管による気管再建の実験的研究		
論 文 審 査 委 員	教授 折田薫三	教授 木村郁郎	教授 小倉義郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

同種気管移植における血行確保の問題を解決するために、雑種成犬を用いて自家移植部に大網を被覆する実験を行ない以下の結論を得た。

1. 自家移植気管に大網被覆術を行ない、約 3 週間後に正常線毛を有する再生上皮及び新生軟骨細胞と気管腺の再生を認めた。
2. 右胃大網動脈よりの silicon rubber 注入にて術後 5 日目大網から移植気管への revascularization が確認された。
3. 移植後は大半が狭窄症状もなく長期生存し、摘出標本の検討でも良好な結果を得た。
4. 本法は同種気管移植における血行確保の問題を解決しうる有力な手段となると考えられる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

雑種成犬を用い胸部気管を 5 軟骨輪切除し、同所再移植した後に、移植部を大網で被覆した群と非被覆群とに分けている。後者では気管軟骨の消失と内腔の狭窄により早期に死亡しているが、前者では大半が長期生存し、気管の狭窄もなく良く発達した再生上皮を認め、移植気管の血管新生も良好である。以上は同種気管移植時の血行確保に 1 つの解答を与えたもので、その臨床意義は極めて大きい。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。